

1	鹿追町立鹿追小学校 外7校	21~23
---	---------------	-------

平成23年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

環境問題の解決を目的とした地球市民の育成を図るための小中高連携した「地球学」教育プログラムの研究開発

2 研究の概要

地球市民としての環境リテラシーを高め、環境問題の解決を図ろうとする児童生徒の育成を図るため、小中高連携した環境教育プログラム「地球学」の開発や環境教育を継続的に研究実践できるシステムの構築に取り組んできた。

そのため、生活科及び総合的な学習の時間を削減し、小学校低学年において年間20時間（各学年）、中学年及び高学年では年間35時間（各学年）、中学校では年間35時間（各学年）の教育活動を行い、高等学校においては、総合的な学習の時間の一部に「地球学」を位置付けて探究活動を行うこととした。

こうした、小学校から高等学校までの12年間の一貫したカリキュラム研究にもとづき、環境リテラシーを高めるとともに、姉妹町であるカナダ・アルバータ州ストニープレイン町の人たちと、地球市民の一員として環境問題を英語で交流できる児童生徒の育成を目指して、3年間の研究を行ってきた。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

- ① 小中高連携した環境教育プログラムを「地球学」とし、小・中学校、高等学校に「地球学」を新設する。
環境教育としての「地球学」における「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」など、観点別評価のねらいや評価規準を明確にするとともに、それぞれの重視する能力や態度と関連付けたプログラムを作成し、プログラム相互の関連性や系統性を図ることにより、地球市民としての環境リテラシーを高めることができると考えた。
- ② 「地球学」の学習は、学年が進むにつれて次第に専門性が高くなり、内容理解に困難が生じることも考えられることから、発達段階を踏まえ、論理的な思考力・判断力を身に付けることが必要と考え、「地球学」に併行して学ぶべき科目として、中学校、高等学校に「実社会数学科」を新設する。
中高教員の相互乗り入れによる習熟度別指導や少人数指導などを行うとともに、「eラーニング」などの授業を通して大学とも連携し、連携型中高一貫校として一層なめらかな接続を図ることにより、より高いレベルでの論理的な思考力・判断力を身に付けることができると考えた。

(2) 教育課程の特例

- ① 小学校では、生活科及び総合的な学習の時間を減じて、「地球科」を1・2年において20時間、3・4・5・6年において35時間設定する。

- ② 中学校では、全学年において総合的な学習の時間を減じて、「地球科」を35時間設定する。
- ③ 中学校3年では、主に選択教科の時間を減じて、「実社会数学科」を35時間設定する。

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

① 「地球学」の創設

「地球学」の創設に当たっては、環境問題が持続可能な社会の実現にかかわる重要な課題であるという認識から、持続可能な開発のための教育（ESD）を主たる教育内容に反映することとした。

そのため、鹿追町の地勢や自然環境を生かしたカリキュラムを構成することとした。具体的には、学習の柱を、「生命・自然」「人間・生活」「新エネルギー」の三つとし、プログラム策定に当たっては、児童生徒の発達段階を踏まえ、小学校では「鹿追の自然の豊かさ」、中学校では「地域や世界の環境問題」、高等学校では「地球環境問題」をそれぞれの学習内容の中心テーマとして、12年間を通したカリキュラムのもと、継続的、発展的に指導することができるよう留意して、プログラムを策定した。

<小学校>

○ 目標

地域の自然の豊かさに気付くとともに、環境に対する興味・関心をもち、人とのかかわりについて理解する。また、環境を守るための知識・技能や価値観を身に付けるとともに、環境保全のために主体的に行動する態度を育てる。

○ 内容

地域の自然の豊かさに気付くとともに環境に対する意欲や関心をもつことができるよう、然別湖周辺の自然探索や生物調査（ウチダザリガニ、ナキウサギ、オショロコマ）、然別川の水質調査、バードハウス作り、植樹活動のほか、町のバイオガスプラントやリサイクルセンターにおける調査活動などを行うプログラムを構成する。また、人とのかかわりについて理解するとともに、環境を守ることの大切さについて考えることができることに配慮したプログラムとする。

○ その他

- ・ 1、2学年においては、年間20時間実施する。
- ・ 3～6学年においては、週あたり1時間で年間35時間実施する。なお、15時間については、鹿追町が行う「地域新エネルギービジョン」（※）と関連した取組とする。

（※）「地域新エネルギービジョン」とは、鹿追町の町づくり計画に位置付けられている計画で、自然の力を利用したり、今まで使われずに捨てていたエネルギー（太陽熱利用、バイオマス熱利用、雪氷熱利用等）を有効に使ったりする地球にやさしい新エネルギーの導入を通じて、地球温暖化防止と地域振興の両立を図ることを目的に策定された計画である。

<中学校>

○ 目標

地域や世界の環境問題に関心をもち、環境に対する人間の役割を理解するとともに、環境保全に必要な知識・技能や価値観を身に付け、環境問題を解決するた

めに、多面的に考え、主体的に行動する態度を育てる。

○ 内容

地域や世界の環境問題に関心をもち、環境に対する人間の役割を理解するとともに、環境保全に必要な知識・技能、考え方を身に付けさせるため、然別湖周辺のウチダザリガニの捕獲や町の自然環境としての土・水・空気、文化環境としての観光や農業、社会環境としてのまちづくりやエネルギー問題（水力、風力、太陽光、雪氷熱、バイオマス等）についての調査・探究活動などを行うプログラムを構成する。

○ その他

- ・ 週あたり1時間で年間35時間実施する。なお、15時間については、鹿追町が行う「地域新エネルギービジョン」と関連した取組とする。

<高等学校>

○ 目標

地球環境問題について、横断的な学習や探究的な学習を通して、地球市民としての自覚を高めるとともに、問題解決に向けて、主体的に社会に働きかけるための思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。

○ 内容

地球環境問題を多面的、多角的に考察し、解決の方向性や地域の在り方などについて展望させることができるよう、「カナダ短期留学」における調査・取材や環境をテーマとしたふれあい事業の企画・運営、環境問題についてのプレゼンテーションやパネルディスカッションなどに取り組むプログラムを構成する。

○ その他

- ・ 「総合的な学習の時間」の一部を環境教育に関する「地球学」と位置付けて探究活動を行う。

② 実社会数学

中学校及び高等学校の数学科との関連を明確にするとともに、中高の2年間（中3、高1）を見通して、学習内容の充実を図る。また、連携型中高一貫校の特色を生かした教員の相互乗り入れにより、習熟度別指導や少人数指導を行い、生徒の関心や意欲を高める授業づくりを進める。

<中学校3年>

○ 目標

実生活・実社会における事象と関連付けた数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を図り、数学的表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさを実感しながら「地球学」の内容理解を深めさせるために必要な論理的な思考力・判断力・表現力を育てる。

○ 内容

系統的に発展する単元については、高等学校の教科書にも触れさせる。（たとえば2次方程式解の公式など）実習では、学習活動の一つとして操作を多く取り入れ実生活に関連した学習を行い、数学の有用性を体感させる。

○ その他

- ・ 3学年において、週あたり1時間で年間35時間実施する。
- ・ 中高教員の相互乗り入れによる習熟度別指導や少人数指導を行う。

<高等学校1年>

- 目標
実際の社会生活と関連付けた数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学のよさを認識し、それらを「地球学」の取組に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

- 内容
実習では、学習活動の一つとして操作を多く取り入れ実生活に関連した学習で数学の有用性を体感させる。

- その他
 - ・第1学年の学科設定科目の「生活の数学」において、週あたり1時間で年間35時間実施する。
 - ・中高教員の相互乗り入れによる習熟度別指導や少人数指導、「eラーニング」などの授業を通じた高大連携を行う。

③ ①②の研究内容、方法等に関する評価方法

- 観点別の評価規準の改善を行い、さらに指導と評価の一体化を図る。
- 定期的に開催する小中高一貫教育推進会議により、研究の方向性及び成果を明らかにするとともに、取組の充実を図る。
- 学識経験者や教育委員会関係者、PTA関係者による運営指導委員会を開催し、研究の方向性や研究の効果等について指導助言を受けるとともに、取組の改善充実を図る。
- 教職員の研究授業及び保護者に対する公開授業を開催し、外部講師等からの指導・助言を通して、指導の在り方の検証を図る。
- 各年度において事前・事後アンケートを実施し、児童生徒の環境問題に対する意識や意欲の変化を調査し、研究の方向性の指針とする。
- 全国学力・学習状況調査や教研式標準学力検査の結果を分析し、各学年や個に応じた指導の重点を明らかにするとともに、経年変化についても分析する。

④ その他の学校間連携

小中や中高における合同の部活動や児童会、生徒会活動の連携、各種発表会、PTAと一体となった地域連携により、魅力ある学校づくりを地域と一体となって進め、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進する。

(2) 研究の経過

計画年次	実施内容等
第1年次 (平成21年度)	(1) 小・中・高等学校 ・大学等の環境学研究者による講演会や研修会を実施し、環境問題に対する意識の高揚 (2) 小学校 ・「地球学」の教育課程の編成と指導方法の開発(指導計画・教材開発) (3) 中学校

	<ul style="list-style-type: none"> ・「地球学」の教育課程の編成と指導方法の開発（指導計画・教材開発） ・「実社会数学」の教育内容・指導方法などの検討 <p>(4) 高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球学」の教育課程の編成と指導方法の開発（指導計画・教材開発） ・「生活の数学」の教育内容・指導方法などの検討
<p>第2年次 (平成22年度)</p>	<p>(1) 小・中・高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等学校において一貫した環境問題に取り組む「地球科」の全体計画の作成と第1年次の実践内容の検証 <p>(2) 小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球学」の教育課程の再編成と指導方法の検証 <p>(3) 中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球学」の教育課程の再編成と指導方法の検証 ・「実社会数学」の教育内容・指導方法などの検証 <p>(4) 高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球学」の教育課程の再編成と指導方法の検証 ・「生活の数学」の教育内容・指導方法などの検証
<p>第3年次 (平成23年度)</p>	<p>(1) 小・中・高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等学校において一貫した環境問題に取り組む「地球科」の学習指導要領の作成 <p>(2) 小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球学」の教育課程の検証と改善充実 <p>(3) 中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球学」の教育課程の検証と改善充実 ・「実社会数学」の教育内容・指導方法などの検証と学習指導要領の作成 <p>(4) 高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球学」の教育課程の検証と改善充実 ・「生活の数学」の教育内容・指導方法などの検証と学習指導要領の作成 <p>○ 小中高一貫教育推進会議の各部会（地球学部会、英語部会、数学部会）運営の中で、年間を見通した校種間連携を進めるため、学習指導要領や年間指導計画等については、小中、中高のなめらかな接続に留意して改善を図る。また、授業実践や学習活動の展開については、各部会での事前・事後研究を充実させ、小中高の連携を強化するとともに、児童生徒相互の交流学習を推進し、実践記録を蓄積する。</p> <p>○ 「地球学」の指導計画に、「実社会数学」（算数・数学科）との関連を位置付け、関連を踏まえて教材を作成する。特に、情報の数値化や図式化、グラフ化、統計処理などを通して、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。「実社会数学科」（中3・高1履修）</p>

による中高の接続を強化し、高等学校の「地球学」における調査・研究活動等の充実に結び付ける。

(3) 評価に関する取組

評価年次	評価方法等
<p>第1年次 (平成21年度)</p>	<p>(1) 小学校から高等学校までの児童生徒、保護者を対象としたアンケートを実施し、校種別の成果と課題の把握に努め、改善策を明確化 【鹿追町児童生徒の小中高一貫教育への意識調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成22年2月16日 ・対象 町内小学校、中学校、高等学校の全学年 ・目的 児童生徒の小中高一貫教育への意識の調査・分析 <p>【鹿追町児童生徒の保護者への小中高一貫教育意識調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成22年2月26日 ・対象 町内小学校、中学校、高等学校のすべての保護者 ・目的 保護者の小中高一貫教育への意識の調査・分析 <p>(2) 運営指導委員会による外部評価を実施し、内容を充実 【第1回】平成21年7月21日(授業公開、研究計画説明、指導助言) 【第2回】平成22年2月26日(授業公開、研究経過報告、指導助言)</p> <p>(3) 全国学力・学習状況調査、CRTの実施による国語、社会、理科、英語算数・数学の学力把握により、改善の視点を明らかにし指導計画の改善・充実の方向性を検討 【CRT(教研式標準学力検査)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成22年2月上旬 ・対象 町内小学校、中学校の全学年 ・目的 児童生徒の学力を客観的・科学的にとらえ、学習指導や教育環境の改善・充実の方向性を検討 <p>(4) 研究開発に伴う教員の意識変化に関するアンケート調査の実施 【鹿追町小中高教員への意識調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成22年2月～ ・対象 町内小学校、中学校、高等学校の全教員 ・目的 教員の小中高一貫教育への意識の調査・分析 <p>(5) 大学の環境学研究者による評価を実施し改善策を明確化</p> <p>(6) 学校評議員会等への研究開発の内容や成果と課題の公表</p>
<p>第2年次 (平成22年度)</p>	<p>(1) 第1年次の評価に基づく実践的研究の継続</p> <p>(2) 小学校から高等学校までの児童生徒、保護者によるアンケートを実施し、校種別の成果と課題の把握に努め、改善策を明確化 【鹿追町児童生徒の小中高一貫教育への意識調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成22年12月～ ・対象 町内小学校、中学校、高等学校の全学年 ・目的 児童生徒の小中高一貫教育への意識の調査・分析

	<p>【鹿追町児童生徒の保護者への小中高一貫教育意識調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成23年1月～ ・対象 町内小学校、中学校、高等学校のすべての保護者 ・目的 保護者の小中高一貫教育への意識の調査・分析 <p>(3) 全国学力・学習状況調査、CRTの実施による国語、社会、理科、英語、算数・数学の学力把握により、改善の視点を明らかにし指導計画の改善・充実の方向性を検討</p> <p>【CRT（教研式標準学力検査）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成23年2月上旬 ・対象 町内小学校、中学校の全学年 ・目的 児童生徒の学力を客観的・科学的にとらえ、学習指導や教育環境の改善・充実の方向性を検討 <p>(4) 研究開発に伴う教員の意識変化に関するアンケート調査の実施</p> <p>【鹿追町小中高教員への意識調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成23年1月～ ・対象 町内小学校、中学校、高等学校の全教員 ・目的 教員の小中高一貫教育への意識の調査・分析 <p>(5) 運営指導委員会による外部評価を実施し、内容を充実</p> <p>【第1回】平成22年7月7日（授業公開、研究計画説明、指導助言）</p> <p>【第2回】平成23年2月8日（授業公開、研究経過報告、指導助言）</p> <p>(6) 公開研究大会を開催し、小・中・高等学校の一貫した連携の在り方について、成果と課題を明確化</p> <p>【鹿追町小中高一貫教育研究大会（研究指定2年次）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成22年9月3日 ・参加 道内各地より270名 ・内容 公開授業、研究発表、研究協議、講演会 ・講師 文部科学省初等中等教育局教科調査官 直山 木綿子 氏 <p>(7) 文部科学省研究開発学校実地調査の実施により、研究の成果と課題を明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査員 初等中等教育局 視学官 吉川 成夫 氏 " 教育課程課 調査官 森田 淳士 氏 <p>(8) 大学の環境学研究者による評価を実施し改善策を明確化</p> <p>(9) 学校評議員会等への研究開発の内容や成果と課題の公表</p>
<p>第3年次 （平成23年度）</p>	<p>(1) 第1年次の評価に基づく実践的研究の継続</p> <p>(2) 小学校から高等学校までの児童生徒、保護者によるアンケートを実施し、校種別の成果と課題の把握に努め、改善策を明確化</p> <p>【鹿追町児童生徒の小中高一貫教育への意識調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成23年10月～ ・対象 町内小学校、中学校、高等学校の全学年 ・目的 児童生徒の小中高一貫教育への意識の調査・分析 <p>【鹿追町児童生徒の保護者への小中高一貫教育意識調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施 平成23年11月～ ・対象 町内小学校、中学校、高等学校のすべての保護者

- ・目的 保護者の小中高一貫教育への意識の調査・分析
- (3) 全国学力・学習状況調査、CRTの実施による国語、社会、理科、英語、算数・数学の学力把握により、改善の視点を明らかにし指導計画の改善・充実の方向性を明確化
 - 【CRT（教研式標準学力検査）】
 - ・実施 平成24年1月下旬
 - ・対象 町内小学校、中学校の全学年
 - ・目的 児童生徒の学力を客観的・科学的にとらえ、学習指導や教育環境の改善・充実の方向性を明確化
- (4) 研究開発に伴う教員の意識変化に関するアンケート調査の実施
 - 【鹿追町小中高教員への意識調査】
 - ・実施 平成23年11月～
 - ・対象 町内小学校、中学校、高等学校の全教員
 - ・目的 教員の小中高一貫教育への意識の調査・分析
- (5) 運営指導委員会による外部評価を実施し、内容を充実
 - 【第1回】平成23年6月29日（授業公開、研究計画説明、指導助言）
 - 【第2回】平成24年2月7日（授業公開、研究経過報告、指導助言）
- (6) 公開研究大会を開催し、小・中・高等学校の一貫した連携の在り方について、成果と課題を明確化
 - 【鹿追町小中高一貫教育研究大会（研究指定3年次）】
 - ・実施 平成23年9月16日
 - ・参加 道内各地より330名
 - ・内容 公開授業、研究発表、研究協議、講演会
 - ・講師 早稲田大学教育学部教授 安彦 忠彦 氏
- (7) 大学の環境学研究者による評価を実施し改善策を明確化
- (8) 学校評議員会等への研究開発の内容や成果と課題の公表

5 研究開発の成果

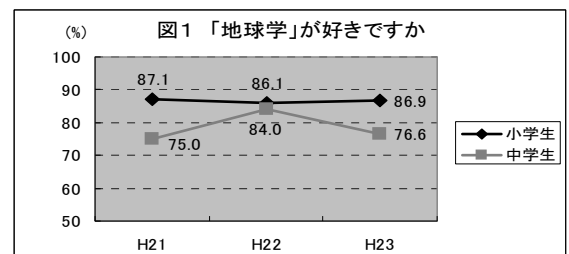
(1) 実施による効果

① 児童生徒への効果

ア 「地球学の学習が好きですか」（図1）

「とても好き」、「好き」と回答した小学生は3年間を通して86%以上で、中学生は年度ごとに若干の上下はあるものの、概ね75%以上であった。

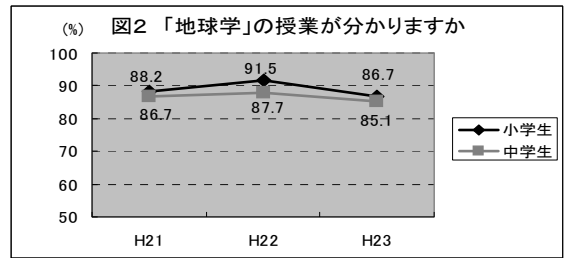
このことから、地球学の学習は、本町の小中学生に好意的に受け止められていると考えられる。



イ 「地球学の授業がわかりますか」 (図2)

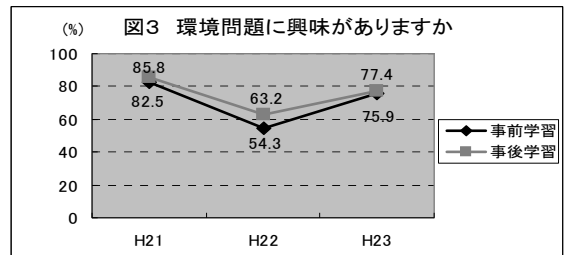
「よくわかる」、「わかる」と回答した小学生は3年間を通して86%以上で、中学生は85%以上であった。

このことから、概ね内容が理解されていると考えられる。



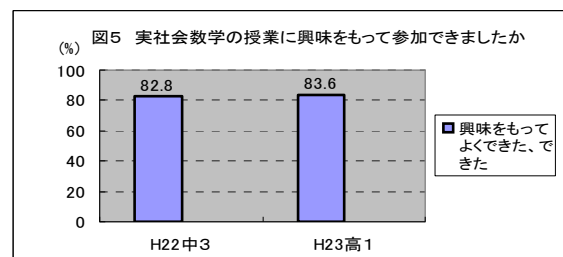
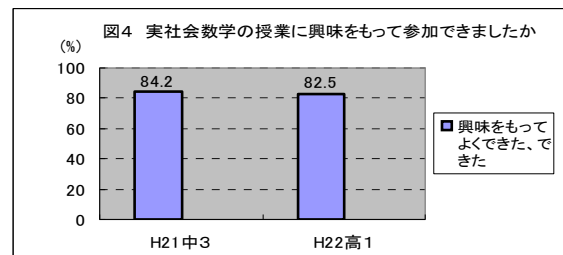
ウ 「環境問題に興味はありますか」 (図3)

この質問は、高校1年生を対象に、カナダの短期留学の事前・事後に実施したが、3年間を通して事後における興味の高度が上昇した。これは、実際に自分で調査等を行い世界的な視野から環境問題を考える機会を得て認識が深まった結果と考えられる。なお、H22の数値が低いのは、入学生出身中学の4割が町外からの生徒であったことから、カナダ学の継続履修の効果が少なかったことが原因と考えられる。



エ 「実社会数学 (高等学校は「生活の数学」)に興味をもって授業に参加できましたか」 (図4、5)

「よくできた」「できた」と回答したH21年度及びH22年度の中学3年生は (次年度に高校1年生)、ともに82%以上であった。これは、中高教員相互の乗り入れによる指導の結果、中学校から高等学校への滑らかな接続の効果であると考えられる。



○ アイウエを通して

※全体に高い評価を得ているが、例えばアとイのグラフを比較してみると、少なからず指導方法の工夫が必要な状況を見ることができ、課題として整理しておきたい。

② 保護者への効果

公開授業や研究大会における保護者のアンケート記述からは、

- ・「授業を受ける子供たちの姿は、とても楽しそうであり、参観している保護者も楽しくなってきた。」
- ・「自然についてのテーマに自分なりの意見をしっかりと発表することができていたので色々な体験が充実しているのだと思った。」
- ・「子供たちの意見を聞き、自分たちの住む鹿追町、そして、国、地球を大切にしようとする気持ちをこれからも持ち続け、未来に伝えてほしい。」

- ・「先生が話をして、子供たちが聞くという授業ではなく、子供たちが主体となって問題の解決に取り組んでいる姿が大変素晴らしかった。」などの感想を得た。このことは、小・中学校、高等学校での取組の成果をよく理解していただいていると考えられ、好意的に受け止められていると考えられることから、地域の協力を得て、今後の充実した実践に生かしたいと考えている。

③ 教師への効果

- ・平成23年9月16日開催された小中高一貫教育研究大会（全国大会）終了後に、町内の全小・中学校、高等学校の教員を対象に行ったアンケートにおいて、「研究大会の成果としてあげられると思うこと」（複数回答）の第1位が「指導方法」（62.4%）で、第2位が「授業内容」（60.4%）であった。このことは、「地球学」の取組の充実に向け、学習内容や指導方法の工夫改善を図ってきた結果であると言える。
しかしながら、児童生徒のアンケートからは、指導方法の一層の工夫が課題として読み取れることも踏まえ、「地球学」の一層の改善に努めていきたい。
- ・また、同アンケートの、自由記述の内容から、組織体制は確立されているものの、小中高一貫教育推進会議の各部会（地球学部会、英語部会、数学部会）における取組内容の精査が必要であることについて書かれており、なおかつ、組織体制について、26%がさらなる改善が必要ととらえていることに留意し、今後の方向性を検討する。

（2）実施上の問題点と今後の課題

12年間を見通したカリキュラムを構成し、学年毎のつながりに留意しているが、小学校から中学校、中学校から高校へという接続の段階において、児童・生徒の発達段階の変化に対応した円滑な接続にかかるプログラムが不足している。

そうしたことから、校種間の指導方法の工夫・改善や児童・生徒の学習状況の校種間での引き継ぎの工夫など、学校運営上の工夫・改善と取組内容の工夫・改善のマッチングが急務となっている。その他に具体的な課題が3点明らかとなっており、今後、解決に向けて検討をすすめていく。

- ① 「地球学」の各単元において、それぞれの目標の達成状況を的確に評価するための観点別学習状況の評価の工夫・改善を図る必要がある。
- ② 本町では「人と自然にやさしい循環型生活環境づくり」等をコンセプトに、地域の特性を更に生かした総合的な町づくりを町民との協働で推進しており、その一環として、鹿追町の世界有数の特徴のある自然環境全体をジオパークとして認定されるよう手続きを進めていることから、ジオパークをフィールドとする防災教育や環境教育の充実を図り、より汎用性の高い「環境教育プログラム」を開発する必要がある。
- ③ 「実社会数学」では、生徒の習熟の程度や興味関心に応じた課題解決的な学習を充実させるため、さらに工夫改善を図る必要がある。

鹿追小学校 外4校 教育課程表（平成23年度）

	各教科の授業時数									道徳	特別活動	総学 習的 な 時 間	新設教科		総 授 業 時 数
	国 語	社 会	算 数	理 科	生 活	音 楽	図 画 工 作	家 庭	体 育				カ ナ ダ 入 門	地 球 科	
第1学年	306	-	136	-	48 -54	68	68	-	102	34	34	-	49 (15)	20	865 +15
第2学年	315	-	175	-	50 -55	70	70	-	105	35	35	-	50 (15)	20	925 +15
第3学年	245	70	175	90	-	60	60	-	105	35	35	0 -70	50 (15)	35	960 +15
第4学年	245	90	175	105	-	60	60	-	105	35	35	0 -70	50 (15)	35	995 +15
第5学年	175	100	175	105	-	50	50	60	90	35	35	20 -50	65 (15)	35	995 +15
第6学年	175	105	175	105	-	50	50	55	90	35	35	20 -50	65 (15)	35	995 +15
計	1461	365	1011	405	98 -109	358	358	115	597	209	209	40 -240	329 (90)	180	5735 +90

【新設教科】

- ・カナダ入門～1学年49時間、2学年50時間、3～4学年50時間、5～6学年65時間実施する。授業時数のうち15時間は、朝の学級活動（Sタイム）において行う英語活動の合計時間である。
- ・地球科～1～2学年20時間、3～6学年35時間実施する。

鹿追中学校 他1校 教育課程表（平成23年度）

	各教科の授業時数										選 択 教 科	道 徳	特 別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	新設 教科	総 授 業 時 数
	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 健 体 育	技 術 家 庭	英 語	カナダ基礎 地球科 実社会数学 BS英語 (3学年)						
第1学年	131 -9	100 -5	138 -2	103 -2	45	45	88 -2	70	90 -15	0	35	35	30 -35	70	980	
第2学年	96 -9	100 -5	103 -2	138 -2	35	35	88 -2	70	90 -15	20	35	35	65 -35	70	980	
第3学年	96 -9	80 -5	138 -2	138 -2	35	35	88 -2	35	90 -15	0 -70	35	35	35 -35	140	980	
計	323 -27	280 -15	379 -6	344 -6	115	115	264 -6	175	270 -45	20 -70	105	105	130 -105	280	2940	

【新設教科】

- ・カナダ基礎～各学年3.5時間
- ・BS英語～3学年3.5時間
- ・地球科～各学年3.5時間
- ・実社会数学～3学年3.5時間

